

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの障がい等の状況に応じた最も適切な教育の創造、地域や関係機関との連携を深めていき、ワクワクを“創発”する守口支援学校」をめざす。
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。
（１）卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
（２）健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
（３）安心で安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
（４）仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標 【ポジティブ（P）に、アクティブ（A）に、クリエイティブ（C）に！】

1（キャリア教育）子どもたちとともに卒業後を見すえ、**自立・自己実現、社会参加**に向けた、12年間の**一貫性のある胸躍る教育活動**を進める。
（１）小学部から夢や志をもって自己の可能性を広げ、**積極的に**粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。（P）
（２）学部間の連携を深め、三学部の連続性のある学びを構築し教育活動の検証や改善を進めることによる組織の活性化。（C）
（３）関係機関と**能動的に**連携し、一人一人が希望する進路の実現を支援する体制の充実。（A）
（４）キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の構築。（C）

2（教育力向上）教員としての**資質、魅力ある（期待に応えられる）教育力**、そして、これからの時代の変化に対応できる学校**組織力の向上**
（１）指導力、授業力の向上を組織的に推進し、子どもたちにとって「**独創的かつ魅力的かつ分かりやすい授業**」の実施をめざす。（C）
（２）一人ひとりが「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。（A）
（３）教員間の意思疎通を図り、相互に高めあう職場環境づくりにより、教職員の組織力の向上を図る。（A）
（４）ICT 機器の積極的かつ効果的な活用により、学びの深化を図り、**1人1台端末に関する保護者のニーズを把握し、検討を重ねる**。（A）

3（安全安心）**人権を尊重**し、保護者や地域から**信頼され、安心・安全に**過ごせ、**楽しい学校づくり**
（１）教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理の指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境を推進する。（A）
（２）危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「主体的に行動する態度」と「助け合う」意識の向上。（A）
（３）人権意識をもってポジティブな関わりと体罰防止と個人情報 の適正な管理運用を行う体制の確立。（P）
（４）教職員全員が心身ともに健康な状況で業務に邁進できるよう働き方改革のもと効率の良い業務推進を行う。（A）

4（地域連携）**センター的機能の充実**と、地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め**意欲的に**生きるための**地域連携の推進**
（１）センター的機能の発揮や内容の充実により、校内外ともに教員の専門性の向上を図る。（A）
（２）魅力的な取り組みを積極的に情報発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。（P）
（３）交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。（P）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7年 11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
回収率令和7年度 保護者 78.5％（小学部 91％、中学部 69％、高等部 67％） 教職員 100％ 令和6年度 保護者 81.3％（小学部 84％、中学部 78％、高等部 80％） 教職員 100％ 教職員の回収率は、今年度も 100％を達成した。保護者の回収率は昨年度 81.3％から約3ポイント下がった。今年度も回収率を上げるために、昨年度と設問内容と数は変更せずに実施した。提出締め切りの少し前に、安心安全メールを発出し、保護者向けに提出のお願いを改めて行った。その結果として提出数は増えたため、一定の効果はあったと考える。 ○保護者 168名回答（回収率 78.5％）18項目の質問に対して 13項目で肯定率 80％を超えていた。※昨年度は 14項目 ・「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。（肯定率 97.0％）《R6 96.2％》 ・「学校は、教育方針や教育情報について、ホームページや懇談などで情報を提供しようとしている」（肯定率 95.2％）《R6 90.4％》 ・「授業参観や、学校行事に参加したことがある。」（肯定率 94.0％）《R6 93.6％》が肯定率の上位3つの項目となっている。このことから、保護者の教職員に対する信頼度が高いことが分かり大変嬉しいことである。 また、以下の2項目に関しては5ポイント以上肯定的意見が上昇した。 ・「学校はホームページの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている。（肯定率 88.7％）《R6 82.7％》 ・「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。（肯定率 92.9％）《R6 87.2％》 ○教職員 100名回答（回収率 100％）28項目の質問に対して 22項目で肯定率 80％を超えていた。（昨年度と同じ）。 ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。（肯定率 99.1％）《R6 95.0％》 ・「教職員は服務規律の遵守等、教育公務員としての自覚をもって勤務している。」（肯定率 94.4％）《R6 94.0％》	【第一回学校運営協議会】7月 11 日図書室にて開催 ○協議テーマ ・学校運営協議会実施要項 ・今年度の学校経営計画について ・各学部、分掌より活動計画重点について ・伴走型支援事業について ・今年度の採択教科書について ○学校運営協議会委員からの意見 ・ICT での保護者や放課後等デイサービス事業所との情報共有の活用について、保護者とは「安心メール」を使った連絡や欠席連絡アプリでの欠席連絡が浸透していることがわかった。放課後等デイサービスとは、学校からメールや事業所側がホームページを閲覧して情報を取得するのみの活用に留まっていることがわかった。 ・先生方の研修について、「一番受けたい研修」は「ICT を活用した授業づくり」という項目が一番多いことがわかった。また、先生方がICT の活用を学びたいという意欲は多いに業務量を減らすことにつながると思う。個人ではなくて学校全体が効率化に向けて積極的に利用してもらえたらいいと思う。 ・タブレット使用による視力低下への懸念があり、使用時間や環境整備に配慮してほしいとの要望があった。夏季の熱中症対策として、プール学習時の WBGT 値の管理や冷却対策の徹底、雷時の対策などに注意してほしいとの要望もあった。 ・先生方が自己研鑽という時間を働き方改革の中でどのように捉えているのかについてはチームで研鑽する方法を取り入れており、新任教員と先輩教員をペアリングし、授業のこ

- ・「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。（肯定率 93.5％）《R6 95.0％》が肯定率の上位 3 つの項目となっている。
- また、以下の 6 項目に関しては 5 ポイント以上肯定的意見が上昇した。
- ・「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。（肯定率 99.1％）《R6 85.0％》
- ・「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。（肯定率 88.0％）《R6 80.0％》
- ・「学校行事について教職員で話し合い、児童・生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫、改善、精選を行っている。」（肯定率 90.7％）《R6 83.0％》
- ・「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。（肯定率 86.1％）《R6 80.0％》
- ・「学校は特別支援教育の「センター的機能の役割」を果たしている。（肯定率 78.7％）《R6 73.0％》
- ・「いじめ（疑いも含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。（肯定率 82.4％）《R6 77.0％》

以上の結果より、今年度「みんなでつくる、より良い学校の未来」をテーマに 1 年を通して定期的に教職員どうして意見交流を積極的に行ったことで、この成果につながったと考える。次年度も意見交流や情報共有を積極的に行うことで連携しあって、維持していきたいと考える。

- 学校経営計画に目標指標が設定されているが、その目標指数を達成できなかった項目（保護者）は以下の 5 項目である。
- ・「学校は、保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる。〔90％以上〕」（肯定率 89.3％）《R6 94.9％》
 - ・「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている（感じている）。〔80％以上〕」（肯定率 76.2％）《R6 78.8％》、
 - ・「教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。〔90％以上〕」（肯定率 88.1％）《R6 90.4％》、
 - ・「学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている。〔80％以上〕（肯定率 75.0％）《R6 81.4％》
 - ・「学校は子どもに 1 人 1 台端末（タブレット型 PC）等を効果的に活用している。〔65％以上〕」（肯定率 46.4％）《R6 56.4％》

⇒この結果を受け、目標値に達しなかったところを中心に次年度は検討を重ね、重点的に取り組んでいくとともに、保護者への周知についても改善していく必要がある。

- ◇次年度の本校の重点取り組みについて
- ①キャリア教育の推進を柱とし、新教育課程の実施・検証を行い、学部連携、教員育成をさらに推進する
 - ②指導力、授業力の向上をめざし、児童生徒にとってワクワクする授業の確立
 - ③アナログとデジタルのバランスの取れた活用を意識しつつ、ICT 機器の更なる効果的な活用を進める
 - ④教員のコミュニケーションの機会を設け、風通しの良い職場環境を構築し、教職員が心身ともに健康な状態で充実した教育活動を提供する
 - ⑤ 地域の学校等との交流及び共同学習の計画的・組織的な継続

- とやどんな些細なことでも、親しみやすい教員間の同僚性によって毎日研鑽していることがわかった。より専門性の高いことは各分掌の各担当者がそれぞれで受けてきた研修を校内で伝達講習という形で周知しており、夏休みなど長期休暇中は教育委員会だけでなく様々な団体が開いている研修に参加し、自己研鑽を積んでいることがわかった。
- ・先生方が授業づくりをしていく上で ICT を使うことが便利だと感じることや使用されている ICT の環境について分かった。また、昨年度更新された教職員端末機はアプリが複数あり、全体研修で Web 会議システムを使って資料を素早く共有したり、生成 AI で業務削減が図れたりできていることがわかった。
 - ・現在、中央教育審議会答申の中で話し合われているのが、ICT 機器を教員がどう使うかではなく子どもたちがどうやって使っていくか、社会に出たときにどのように使いこなせるかということについてである。

- 校内での ICT を使った教育環境についてよく分かった。1 人 1 台端末を様々な授業で活用しており、子ども達には調べ学習等で自身で調べて答えにたどりつくことができる力をつけてあげてほしい。自立に向けてできることを増やすことが一番必要な部分であることがわかった。
- ・学校教育自己診断で、教員の「ICT を活用・工夫している」が 90％程度なのに対し、保護者・子どもの目線で見るとそう感じてないという結果が出ている。保護者にうまく伝わっていないと感じる部分がある。保護者に「子どものこういう力を引き出したいからこんな教材を使用している」という情報を効率よく発信して、先生方が頑張っている部分をみていただくことで理解が進むと思う。
 - ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点の先生方の言葉は児童生徒にとって励みになっていると思う。そういう部分を大事にしてほしい。

- 【第二回学校運営協議会】11 月 7 日図書室にて開催
- 協議テーマ
- ・今年度の学校経営計画の進捗状況について
 - ・各学部等からの教育活動報告
 - ・創立 30 周年記念式典報告
 - ・教職員研修報告
 - ・伴走型支援事業進捗状況
 - ・学校教育自己診断について
- 学校運営協議会からの意見
- ・体づくり運動について。児童生徒の体の硬さに心配している。データを取りながら運動時間を確保してほしい。
 - ・教職員のメンタルヘルス研修は職員みんなで取り組んでいることが素晴らしい。業務改善については、ICT 機器をつかって不必要な業務は減らすべき。ただ、会議を減らす、校内研修を減らす、だけではなく増やすものについては増やしてもらいたい。朝の連絡会の ICT 化は朝の連絡会に居ない人にとっては必要なツール。工夫しながら継続して進めてもらえたら。
 - ・北河内支援教育 Lab・守口門真支援教育 Lab について、支援に対する知識を広めていくことが地域の教育向上につながっていく、とても良い取り組みだと思う。
 - ・昨今、子どもの不規則な生活環境や様々な要因で基礎体温が下がっていることを心配している。運動時間の確保や規則正しい生活時間を意識させるなどお願いしたい。

				は大きな安心材料。これらの実践が学部間でさらに共有され、連続した学びとして深まることを期待したい。 - 肯定率が下がった項目については次年度への課題が検討されており評価できる。一方で、保護者の「授業が楽しく分かりやすい」との実感につなげる取組はより重要であり、今年度の検証を踏まえ、学部・分掌・教科・学年での横断的な協議と実践による授業改善が求められる。 - 教職員の信頼関係や人権尊重、防災・安全の取組など、学校運営が安定している点は心強く、日頃の努力が教職員・保護者双方から高く評価されている。一方、1人1台端末の活用やいじめ対応は、学校の実践が保護者に十分伝わっていない印象がある。授業の様子や具体例とともに取組を発信することで理解と信頼がより深まることを期待したい。 - 学習指導要領改訂を見据え、学部間連携という本校の強みを生かした教育課程の充実が期待される。伴走型支援によりICT化や業務改善が進み、教職員の心の余裕が質の高い子どもへの関わりにつながっている。今後も「みんなでつくる」を基盤に、宿題や懇談の在り方など慣習を実態に合わせ柔軟に見直していくことを望む。
--	--	--	--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、社会参加に向けた、一貫性のある教育活動の推進	(1) 児童生徒が夢や志をもって粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。	(1) ア 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用 イ 児童生徒等の状況に応じた指導の工夫と改善 ・校則や校内ルールの確認	(1) ㊦「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[90.4%(0.6P↓)] ア ・校務支援システムの導入に関わる「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の新様式システムの活用とマニュアルが作成できたか。 イ ・児童生徒への校則や校内のルールについて見直し確認できたか。	(1) ㊦「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[88.1%(2.3P↓)](△) ア ・説明会等の研修をふまえ、「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」とともに令和9年度の運用開始を目標にマニュアルの作成を進めている。(○) イ ・新たに「中学部版の生活のきまり」を策定し、次年度から運用していく。また、高等部については「自転車通学」を開始する。(◎)
	(2) 学部間の連携と情報共有を深め、三学部の連続性のある学びの構築	(2) ア 生徒の状況や実態に応じた適切な教育課程の編成と2期制申請に向けた検討 ・三学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の実施 ・新時間割の運用、検証及び改善点の定着。 ・学年進行の授業体制等に向けて ・三学部の連続性、学びの構築が実現できるシラバスの見直し ・行事（むつみ祭等）の検証	(2) ア ・R5年度に改定した行事シラバスに合わせた校外学習や泊行事の実施、内容の検証ができたか。 ・全学部において時間割（校時や特別教室の使用等）に関するアンケートを実施、検討、改善ができたか。 ・学年進行における授業体制の引き続きの検討、課題の解消ができたか。（主に <u>中学部高等部</u> ） ・PT を立ち上げ、職業自立コースの新教育課程の検討ができたか。（主に高等部） ・三学部のシラバスが連続性を持って、学びの構築が実現できる内容になるように、全校教科会で内容を確認、検証できたか。 ・各学部で実状に応じた行事の実施について、意見交換の上、検討できたか。 ㊦「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」90%以上維持[94.2%(4.7P↑)]	(2) ア ・シラバスに沿った内容で実施できている。また、各学部現状に伴い、検証し、修正、変更希望を聞き取って更新している。(○) ・アンケートを実施した結果、各学部で検討すべき内容はあったものの全校で調整が必要な内容はなかった。全校へのアンケートは今年度で終了とする。(○) ・令和9年度に完全移行に向けて検討を進めている。課題を確認し、解消するための試行を令和8年度に実施する。(○) ・多様な生徒に対応できるように検討を行った。保護者のニーズも取り入れられるように「生活実習」を行い、本校のアピールポイントを確立していく。(○) ・計画通り実施することができた。継続して「教育課程シラバス」の作成を進める。(○) ・各学部の実情に応じて検討を行っている。今後、全校としての行事のあり方の検討も行う。(○) ㊦「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」90%以上維持[89.3%(5.6P↓)](△)

	(3) 一人一人が希望する進路の実現を支援する体制の充実。	(3) ア - 児童生徒の進路選択における教育活動の充実と進路指導に関する体制づくりの検討 小中学部：進路学習の整理と進路学習に繋がる取り組みの共通理解を進める。 中学部：進路指導の充実と職場体験学習の改善 高等部：各学年で主体性のある進路学習の実施。魅力ある<u>職業自立コースに向けての検討</u> イ - 定着支援、アフターフォローに向けた取り組みの充実 - 年間を通じて卒業生が相談できる体制を構築する。	㊦「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」75%以上維持[81%（7P↑）] (3) ア - それぞれの学部で進路指導、進路学習の「具体的な取り組み計画や内容」の整理と改善検討実施ができたか。 - 中学部高等部教員のアビリンピック見学ができたか。 - 職場体験学習について検討する場を持てたか - 職業自立コースの教育活動充実に向けた教育課程の改善に向けて、検討できたか。 イ - 旧担任等による進路先訪問（R6卒業生全員）が実施できたか。 - 卒業生対象の相談会（R5,6年度卒業生）を2回実施できたか。 - ホームページの卒業生向けページの内容を充実できたか。 - 同窓会や行事、相談会など来校の機会にアンケート等で卒業生の意見をさくことができたか。 (4) ア 小、中学部教員が「高等部コース制」の研修へ参加し本校の進路指導等に理解を深めることができたか。 - 全校教員対象の「進路指導に関する研修会」を実施できたか。 テーマ：中学校中学部卒業後の進路選択、高等部卒業後の進路 - 高等部3年生担任対象に「進路決定までの流れ」をテーマにミニ研修を実施できたか。 7月に施設見学会を実施できたか。 - 児童生徒の校外学習を通してキャリア教育の推進が図れたか。 ㊧「学校は子どもの将来の進路や職業について段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上維持[81.4%（6.8P↑）]	㊦「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」75%以上維持[83.3%（2.3P↑）]（○） (3) ア - 学部ごとに進路指導に関する取り組みを学年、時期ごとに整理し、改善検討実施した。（○） 7月5日(土)に高等部進路指導主事と中学部進路指導部員で見学・視察を実施した。（○） - 職場体験学習の案内到着後中学部教員に共有し、生徒への案内配付・参加集約、引率教員体制の調整を進めた。今年度は2名参加予定。（○） - 首席を中心とし、部主事、職業コース担当者と連携して検討を進めることができた。夏季休業中には一定の方向性を確認することができた。（○） 1学期に8ヶ所実施済み、各回5名以上の参加希望があり（当日キャンセル含む）、事業所によっては10名を超えることもあった。2学期にも2ヶ所実施。また、夏季休業中に実施し、必要に応じて関係機関（就ボツ、計画相談等）と連携している。（○） イ - 夏季休業中に実施し、必要に応じて関係機関（就ボツ、計画相談等）と連携している。（○） 6月の同窓会時に1回目を実施。2回目は12月に実施。（○） - 同窓会や学校行事の案内を発信している。今年度から福祉施設冊子のホームページへの掲載を開始し、北河内地区の支援学校で共有している（○） - 同窓会時にアンケートを実施した。「楽しかった」「来年も参加したい」が100%の結果であった。（○） (4) ア 4月末に新転任や中3、高1の直近でコース制への理解が必要な教員対象に実施し、理解を深めることができた。全校に向けては7月に実施した。（○） 7月23日に実施し、中学部・高等部卒業後の進路について、理解を深めることができた。（○） 4月の学年会で実施した。（○） 7月23日に実施。コンビニ企業の特例子会社の見学を行い、教員計9名が参加した。（○） - 校外の施設利用を中心に活動し、公共交通機関を利用する力をつけるよう取り組んでいる。高等部の職業自立コースでは社会的自立に向け、生徒たちで行先や活動を考え、卒業後の余暇活動の学習として取り組んでいる。また、今年度、希望者のみではあるが、大阪関西万博に校外学習として参加した。（○） ㊧「学校は子どもの将来の進路や職業について段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上維持[75%
--	---	--	---	---

				(6.4P↓)] (△)
2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上	(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、子どもたちへ「魅力ある授業」の実施	(1) ア 「各教科の内容充実」、「横断的な指導」実施に向けた検討 イ ・授業力向上のための授業見学や公開授業の充実と工夫と出前授業の実施 ウ 校外の研修等の情報共有 ・府内外の研修への積極的に参加と伝達講習の計画的な実施徹底 ・効果的な研究協議の方法の検討、実施 エ 校内研修の充実を図る ・教員を講師としたテーマ研修や事例検討等の「もりぐち支援 Lab」の継続実施 ・教員のニーズを聞き取り、見合った校内研修を実施 ・充実した部別研修の実施形態の検討	(1) ⑤「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」80%以上[78.8% (0.8P↑)] ⑤「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[90.4% (0.6P↓)] ⑥「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」85%以上維持[95% (2.4P↑)] ア ・「魅力ある教育活動」に向けて「各教科の内容充実」や「横断的な指導」について話し合う時間を設定し、授業内容に活かす検討ができたか。 イ ・地域等を対象とした活発な公開授業と（校外から10人以上参加/各回）またより多くの教員が授業見学できるよう検討し実施できたか（他学部・他学年など2つ以上見学）。 ・初任者と 10 年目研修者の研究授業を公開できたか。 ・出前授業が実施（各学部1回以上）できたか。 ウ ・伝達講習の内容の検討、定期的な実施ができたか。 ⑥「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[80% (5.3P↓)] ・効果的な研究協議の方法についての検討に向けてアンケートを実施し検討できたか。 エ ・「太田ステージ」、「個別的教育支援計画」、「事例検討会」をテーマに実施し、参加率 70%以上。 ・「具体的な取り組み計画や内容」を継続して実施できたか。 ⑥「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[80% (3.2P↑)] ⑥「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%以上[80% (2P↑)]	(1) ⑤「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」80%以上[76.2% (2.6P↓)] (△) ⑤「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[88.1% (2.3P↓)] (△) ⑥「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」85%以上維持[93.5% (1.5P↓)] (○) ア ・4月と 11 月に検討を行った。11 月には次年度のシラバスをもとにして「横断的な指導」の検討を行うことで次年度の授業内容に活かすことができた。（◎） イ ・各回で校外からの参加は 20 名を超え、地域への公開を行うことができています。また、実施する曜日を調整することで全教員が2つ以上の授業を見学できるようにした。（○） ・府内の支援学校に授業案内を行い、研究授業を公開できた。 ・初任者研修では会場校として、府内の支援学校から初任者が集まり、授業公開、研究協議を行うことができた。（○） ・実施に向けて調整していたが行事に伴う時間割変更により実施に至らなかった。（△） ウ ・内容を厳選し、伝達講習を実施できた。全体として全ての研修等で伝達講習を実施する時間を確保することが難しいため、管外出張に出た教員に対し、資料の格納をお願いしている。また、分掌内で実施方法の検討を行っている段階である。次年度以降の実施方法について教職員に周知を行う予定である。（○） ⑥「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[74.1% (5.9P↓)] (△) ・12 月の研究協議終了後にアンケートを実施。現在結果の集計中。今年度中に分掌内で、来年度の実施方法について協議、教職員に周知を行う予定である。（○） エ ・「太田ステージ」、「事例検討会」をテーマに実施した。研修の参加率が 60%となった為、来年度は研究推進部と協力し、研修の在り方について、教員の意識向上に力を注ぎたい。（△） ・全教員に向けて、校内研修でどんなことを学んでいきたいかアンケートを行い、校内研修へのニーズを把握し、研修内容等検討に活かした。次年度以降の校内研修に向けても今回の結果を踏まえ、検討していく。（○） ⑥「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[88.0% (8.0P↑)] (○) ⑥「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%以上[86.1% (6.1P↑)] (○)
	(2) 「高度な専門職として」	(2)	(2) ⑤「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[94・2% (2P↑)]	(2) ⑤「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[91.1% (3.1P↑)] (○)

	より確かな人権意識を身に付け、専門性の向上をめざす (3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくり (4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用による学びの深化。	ア 専門性の向上 ・研修を実施し「児童生徒の実態把握」等の手段についての学びを深める イ 人権意識の向上 ・「児童生徒の人権を守るためにできること」、「自己肯定感を高める取り組み」についての学習会を実施 (3) ア 職場におけるハラスメントの防止 イ 教員間のコミュニケーション機会増 ・「首席カフェ」の継続実施に向けた検討 ・研修等を活用したコミュニケーション機会の設定 (4) ア ICT の効果的な活用 ・ICT 機器やアプリ、クラウドサービスの活用支援方法の研修を実施 イ ICT を活用した教材づくり ・「オンラインストレージ」を活用した教材データの整理と活用	㊦「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」65%以上[60%（2.1P↑）] ア ・臨床心理士による研修を実施できたか。 ・講師経験のない教員が講師になり、校内での研修をできたか。 イ ・人権に関する学習会や校内研修を2回実施できたか。 (3) ア ㊦「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%以上維持[85%（3.4P↓）] イ ・研修等の場を活用し、前年度以上にコミュニケーション機会を作り出せたか。 ㊦「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている」75%以上維持[80%（4.2P↑）] ㊦「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」75%以上維持[85%（8.2P↑）] (4) ア ㊦「学校は子どもに1人1台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」65%以上[56.4%（6.7P↓）] ・授業に役立つ ICT 活用の研修（参加率 70%以上）やミニ研修会（参加率 8 人以上/各回）が学期に 1 回以上実施できたか。 ・本校の ICT 活用の取り組みについての保護者対象説明会を実施できたか。 イ ・全教員がオンラインストレージ内に教材を格納できたか。 ・ICT 機器とそれ以外の教材を効果的に活用できたか。	1P↓）]（○） ㊦「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」65%以上[63.9%（3.9P↑）]（△） ア 臨床心理士の体調不良により、急遽講師を変更した。言語聴覚士の喫食、言葉、発語等の内容の学習することができた。（○） ・「もりぐち Lab」において、太田ステージや授業力向上に向けての研修を講師経験のない教員が講師になって校内での研修を実施している。（○） イ ・前期に「アンガーマネジメント」後期は「同和問題」をテーマに、外部講師や大阪府教育センターへ講師派遣を依頼し研修をしていただいた。実施後のアンケート調査結果では両研修に肯定的な意見が多数あった。（○） (3) ア ㊦「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%以上維持[84.3%（0.7P↓）]（△） イ ・部別研修や研究協議において、前年度以上に教員同士が話し合う機会をつくっている。（○） ㊦「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている」75%以上維持[80.6%（0.6P↑）]（○） ㊦「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」75%以上維持[99.1%（14.1P↑）]（○） (4) ア ㊦「学校は子どもに1人1台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」65%以上[46.4%（10P↓）]（△） 「学期に1回」は達成することができなかったが、以下の内容で研修を実施した。（○） ①アプリに関するミニ研修①（8月実施/10人参加） ②アプリに関するミニ研修②（8月実施/10人参加） ③アプリに関するミニ研修③（1月実施/10人） ④AIに関する研修（1月実施/全教員参加） ・実施できなかった。次年度必要に応じて実施していく。（△） イ ・各学部、教材の格納スペースを提示し、他学部の教材も閲覧して参考にできるように、教材準備の一助となるようにアナウンスしている。全教員の格納情報についてアンケート実施。 全教員は格納できていなかった。（△） ・授業始めの内容提示等をモニターで表示する方法がスタンダードになりつつある。しかし、活動に応じてホワイトボード等を使用することもあり、場面に応じて適切に活
--	--	---	--	---

		ウ 統合 ICT ネットワークの円滑な活用	ウ トラブルなく統合 ICT ネットワークの新環境を活用できたか。	用することができている。1 人 1 台端末の個別最適な使い方については次年度の課題として分掌を中心に取り組んでいく。 （○） ウ 昨年度更新した教職員端末機について、諸所の問題に迅速に対応し、大きな問題なく円滑に活用できている。教室で授業に活用する様子も多く見られた。（○）
3 人 権 を 尊 重 し 、 児 童 生 徒 ・ 保 護 者 か ら 信 頼 さ れ る 学 校 づ く り	（１） 保 健 ・ 安 全 ・ 衛 生 管 理 に 関 す る 指 導 ・ 支 援 の 徹 底 を 図 り、安 全 で 安 心 な 教 育 環 境 を 推 進	（１） ア 校内の防災、緊急時への備えの充実	（１） ア ㊦「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」90％以上[96.2％（11.7P↑）] ・大規模災害対応 PT で「新大規模災害マニュアル」の検証と周知ができたか。 ・備蓄品のローリングストックの検証が出来たか。 ・定期的な通学バス安全研修、バス連絡会（安心メール、バス携帯等の操作方法確認含む）の実施が定着したか。	（１） ア ㊦「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」90％以上[97％（0.8P↑）]（○） ・PT で検証している最終段階である。検証でき次第、2 月をめぐに直ちに全教職員に周知する。（○） ・検証し、今年度から児童生徒及び教職員の備蓄食（3 年保存の2 日分の水と白米のセット）を一括管理した。（○） ・バス安全研修は、予定通り（4 月, 5 月, 8 月）実施できた。バス連絡会も毎週月曜日の朝に実施しており、関係者との連携を図っている。（○）
	（２）危機管理体制の充実に向けた防災教育の取り組み推進	イ 事故防止に向けた研修の充実や施設整備や安全点検の適切で迅速な対応	イ ㊦「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70％以上維持[70.5％（6.6P↑）] ㊧「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」80％以上維持[87％（4.9P↑）] ・安全点検や施設整備の実施に関する内容を都度、ブログや文書等で保護者に周知できたか。 ・食物アレルギーの緊急時対応研修の実施ができたか。 ・食物アレルギー対応マニュアルに基づいた対応を徹底できたか。	イ ㊦「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70％以上維持[72％（1.5P↑）]（○） ㊧「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている」80％以上維持[87％（―）]（○） ・安心安全メール、学校ブログ等で保護者に周知できた。（○） ・全体研修として緊急時対応のシミュレーションを含む研修を実施した。（○） ・幸い大きな食物アレルギー事象はなく、日々職員間でアレルギー対応を確認し、継続することができた。（○）
	（３） 体 罰 防 止 と 個 人 情 報 の 適 切 な 管 理 運 用 を 行 う 体 制 の 確 立。	（２） ア 防犯、防災学習の充実に向けた検証と改善 イ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進	（２） ア ・前期の防災教育と外部機関と連携し、安全研修が実施できたか。（3 回以上） ・昨年度の反省を活かした「引き渡し訓練」を実施できたか。 イ ㊦「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」80％以上維持[87.2％（8.5P↑）] ・災害用備蓄品の不足分の計画的な購入補充ができたか。	（２） ア ・警察署、消防署の助言のもと、有事に近づけた避難訓練が4 回実施できた。（○） ・昨年度からの引継ぎ事項と改善点を、職員会議などで周知し、6 月に「引き渡し訓練」を実施できた。（○） イ ㊦「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」80％以上維持[8 4.5％（2.7P↓）]（○） ・災害用ヘルメット、携帯用簡易レインポンチョ、密閉バックルストッカー（児童生徒の非常用持ち出し袋を入れるためのストッカー）等を購入し、2 月までに補充予定である。（○）
		（３） ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進 ・人権研修の実施 ・人権アクションプランの周知徹底	（３） ア ・人権侵害事象ゼロであったか。 ・人権研修を2 回実施できたか。 ・全校で児童生徒へ「さん」「くん」の呼名徹底のための啓発活動ができたか。	（３） ア ・各窓口となる教員への報告事象はなし。（○） ・前後期に各 1 回の研修を実施できた。（○） ・毎月初めに各学部や朝の連絡会の資料で人権アクションプランの周知を実施した。また、職員室や更衣室など複数個所にて掲示物を貼って啓発できた。（○）

	(4) 教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成。	イ ・個人情報の取り扱いに対する意識向上 (4) ア ワークライフバランスを意識した働き方への意識改革	イ ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会を4月に開催しクラス内での確認、また他クラス等と情報交換できたか。 ・個人情報目録の更新の検討を進めることができたか。 (4) ア ・定時退勤日(週1回)の徹底実施と時間外勤務時間がR6より10%削減出来たか ・ストレスチェックの「総合健康リスク指数」106以下[106] ・「伴走型支援プログラム」に参加し、学校のミッションやビジョンに沿った取り組みを進め、働きやすさと働きがいの両立、よりよい学校づくりを実現できたか。	イ 4月初めに誤配付防止に向けたミニ学習会を開催し、全クラスでの実施を確認した。ヒヤリハットインシデントは2学期に2件起きているが、その都度誤配付の防止のための啓発を行った。(○) ・各部署に目録についての検討を行ってもらい、全ての部署について、更新ができた。(○) (4) ア ・定時退勤日(週1回)の徹底実施し、昨年より15,2%削減できている。(○) ・教職員の心身の保持増進(メンタルヘルス)のための活動を検討・実施。8/28学校医によるメンタルヘルス研修を実施。各学期の休憩時間を活用してメンタルヘルスのとりくみ(運動、交流等)をすすめている。働きやすい職場環境づくりの一環として、定時退勤日を推奨する取り組みを実施。 ・総合健康リスク指数【100】昨年度と比べて数値は下がった。「仕事の量」・「職場の支援」の項目で平均値の100となった。(◎) ・①朝の連絡会のICT化、②懇談期間の時間の見直し、③「宿題」の撤廃について、④「プール」学習期間の短縮についてを全校で取り組む内容とし、次年度実施を予定している。(◎)
4 セ ン タ ー 的 機 能 の 充 実 と 地 域 連 携 の 推 進	(1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実 (2) 本校の魅力的な取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携強化。 (3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解の構築。	(1) ア 関係機関との連携強化 ・新就学、進学に向けた市教委との情報共有 ・センター的機能の発揮 地域の学校教員対象の研修会(「守口門真支援教育Lab」「北河内支援教育Lab」)の開催 (2) ア ホームページの充実を図る ・定期的なブログUPによる教育活動の紹介 ・見やすいホームページに向けた検討 イ 本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料の改訂版の作成 (3) ア 近隣校との交流の充実と地域の交流活動への参加	(1) ア ・就学に向けた市教委との連絡会の時期を早め実施(3回以上) ・守口門真支援教育Labの開催(3回以上) ・守口門真支援教育Labへ参加率が上げることができたか。(外部からの参加のべ110人以上/全回合計)(校内より10人以上/各回) (2) ア ・保護者の閲覧数増加に向けたブログ掲載の計画を立てられたか。 ・ホームページの内容を検討することができたか。 ㊦「学校はHPの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」75%以上維持[82.7%(7.3P↑)] イ ・全教職員で協力してR7創立30周年式典を実施することができたか。分掌と連携し年間を通じた記念活動が実施できたか。 ・近隣中学校(守口市立中学校全校を対象)への広報活動を実施できたか。 (3) ア ・各学部主事や係より交流活動の報告会を行い全校で共有できたか。保護者へも交流の活動を周知できたか。 ・居住地校交流を積極的に進めることができたか。 ㊦「学校は子どもが他の学校の子どもたちと交流す	(1) ア ・対面では門真市2回、守口市2回、計4回、以降は電話での連絡を行った。(○) ・守口門真支援教育支援Labの範囲を広げ、北河内支援教育Labの名称で研修を4回実施した。(○) ・守口門真支援教育・北河内支援教育Labは、外部からの参加者：のべ109人、校内よりのべ35人(①15人、②20人)の参加者があった。(△) (2) ア ・交流ブログを定期ブログの内容から外し、行事实施後すぐに掲載できるように計画し、閲覧数増加につながった(○) ※R7年度14,650(R6年度10,628) ・課題であったHPとブログの導線を整え、見やすいHPになるように検討した。また、新しいページとして『給食室』『30周年記念式典』ページの準備を進めている。(○) ㊦「学校はHPの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」75%以上維持[88.7%(6P↑)](○) イ ・概ね計画通りに実施することができた。式典は全教職員でとりくむことができた。(○) ・10月1日に地域中学校支援学級の教員向け勉強会を協同で実施した。(○) (3) ア ・学部内で共有、ブログに掲載、年度末に全校で共有できた。(○) ・4月の個人懇談にて知らせた。前年度より交流件数増となった。(R627件→R735件)(○) ㊦「学校は子どもが他の学校の子どもたち

		る機会を設けている」 80%以上維持[87.2%（11.8P↑）] ⑧「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に 設け教育全般に活かしている」 80%以上維持[84%（1.3P↓）] ・地域との共同イベント「春を呼ぶみんなのコンサ ート」へ全校で参加することができたか。 ・PT で検証と次年度以降の引継ぎ部署との調整がで きたか。 イ ・昨年度の反省をもとに児童生徒活動や全校集会の 検討と見直しができたか。 ・生徒会による地域でのあいさつ運動ができたか。 ・清掃運動実施（前期・後期各1回）できたか。	と交流する機会を設けている」80%以上 維持[92.2%（5.7P↑）]（○） ⑧「近隣の小中高等学校との交流の機会を 積極的に設け教育全般に活かしている」 80%以上維持[83.4%（0.6P↓）] （○） ・第31回のダンスでの舞台発表参加に向け て、全校の児童生徒への参加募集の案内を 配付。その他幕間のカラオケ参加も別途希 望者を募集した。（舞台発表9名、カラオ ケ3名出演予定）（○） ・次年度は担当部署を委員会として発足し運 営していく予定。（○） イ ・昨年度の反省をふまえ、計画通りに準備を 進め実施できた。（○） ・高等部の生徒を中心に、校門前と近隣の公 園に移動して、あいさつ運動、学校周辺の 地域での清掃運動を年2回実施することが できた。（○）
--	--	---	---